## たとえ弦が切れようとも

今年のドレミファコンサートでは，どうしてもハープが必要だったので，岡山市在住のＴさんに出演を依頼したところ，快く引き受けてくださり助かりました。

ハープは 47 本もの弦が張られ音合わせが大変だ，ということは前回のコラムに書きましたが，実はこの弦，けっこう切れるらしいのです。「今年の夏は高い湿度のせいかよく切れたのよ」と教えてくれたのは前出のＴさん。

筆者は，彼女のハープの弦が勢い良く切れてしまった現場に居合わせたことがあります。丁度，モーツァルトの「フルートとハープの為の協奏曲」という美しい曲のリハーサルのことでした。本番２時間前，どうなる？と思いきや，Ｔ さん涼しい顔で，「この音，今回は使わないから大丈夫」って結局張らずじまい。

バイオリンなどの弦楽器ではこうはいきません。弦はたったの４本しかありませんから，１本でも切れたら，すぐさま張り替えなければなりません。ところが，弦はいつ切れるか分からないので悩ましい。

たいていの奏者は，使い古した予備の弦をケースに忍び込ませています。新しい弦は張って少し経つとすぐに伸びてしまい，演奏中に音程が下りすぎるので，不測の事態に備えて，しっかりと伸びた「中古の弦」を持っているというわけです。

当然，本番中に弦が切れることもあります。本番の舞台で弦が切れてしまった一人のバイオリニストを思い浮かべてください。哀れな彼は，すぐ後ろで演奏する人の楽器と自分の楽器を交換して演奏を続けます。同様に，弦の切れた楽器は後ろへと順繰り送られ，しんがりの奏者がそれを手に舞台袖へと入り，弦を張り替えて戻って来たではありませんか。

これが，一般的な対応策です。私は見たことがないのですが，家内は実際に見たこともあり，経験したこともあるそうです。

私も本番直前に弦が切れたことはあります。弦が切れたら張り替えればいいわけですが，こともあろうに，その日は予備弦がない。楽器店に行く時間もないし，たとえ弦を買って張り替えられても，新しい弦はすぐに音程が狂ってしまいます。万事休す？しかし，その日は，とても「弦が切れました」と言える状況ではありませんでした。何故なら，その本番は私の先輩の結婚式だったのですから。

後にも先にも３本弦のバイオリンを弾いたのは，この一度きりです。（切れたのが一番低い弦ではなかったので，こんな芸当ができたのです）その時，痛感しました。常日頃から予備弦を確認しておかなければならないと。

因みに，その先輩，昨年，ひとり娘さんが大学生になられ，家族３人で幸せに過ごされています。もちろん，あの日，弦が切れたことは，今も内緒です。

３番線が切れたバイオリン
とても，「切れました」なんて言えず……